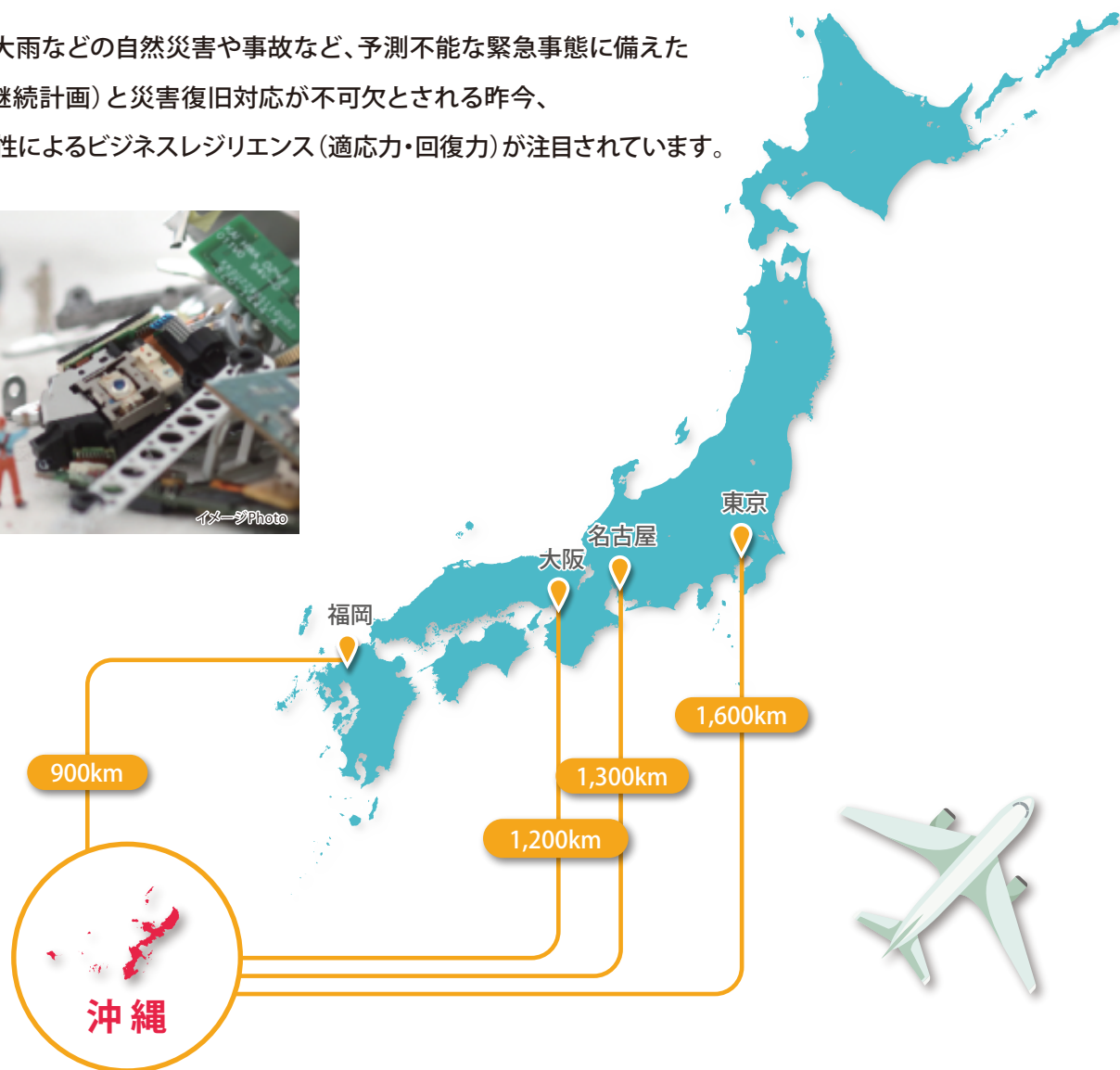


1 沖縄の地理的特性

地震や津波、大雨などの自然災害や事故など、予測不能な緊急事態に備えたBCP対策（事業継続計画）と災害復旧対応が不可欠とされる昨今、沖縄の地理的特性によるビジネスレジリエンス（適応力・回復力）が注目されています。



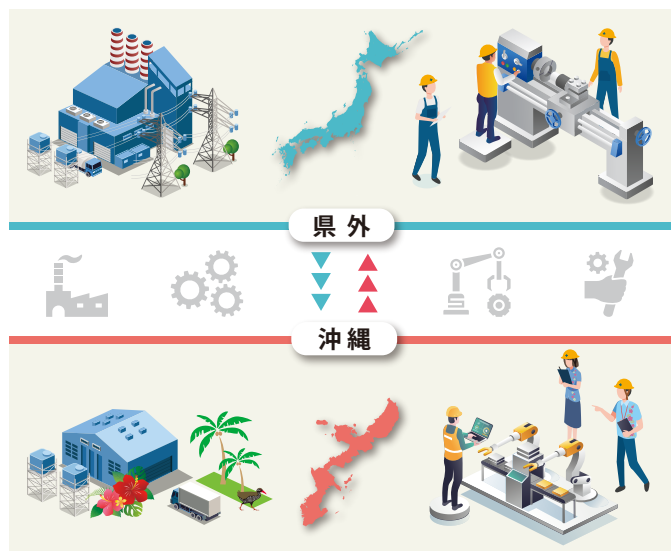
Point 1 本土から距離が離れ同時被災リスクが低い

沖縄県は、日本本土から遠隔地にあるため、本州で大規模な災害が発生した場合にも、同時被災のリスクが比較的低いと考えられています。

実際に本土での大規模な災害を契機として、事業拠点分散地として沖縄に立地された企業や、データのバックアップ及びBCP対策の拠点として沖縄を活用されている企業も複数あります。

また、行政もリスク分散拠点として沖縄を評価しており、一部の官公庁では、データのバックアップ拠点として沖縄を採択しています。

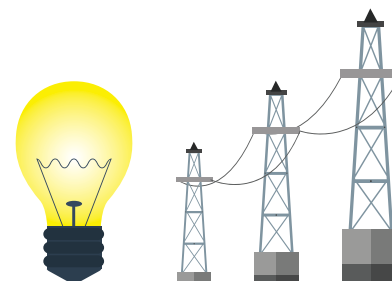
本州からほどよい距離にあることで災害復旧のスピードを高めることができる利点もあります。沖縄は、災害対策におけるシステムのバックアップや、デュアルセンター（同時運用のオペレーションセンター）として理想的な場所と言えます。



Point

2 本土とは独立した電力供給体制

日本本土とは独立し、火力発電を主体に安定した電力供給が行われており、電力不足等による作業の中止やデータ損失といったリスクの低減及び分散が期待できます。

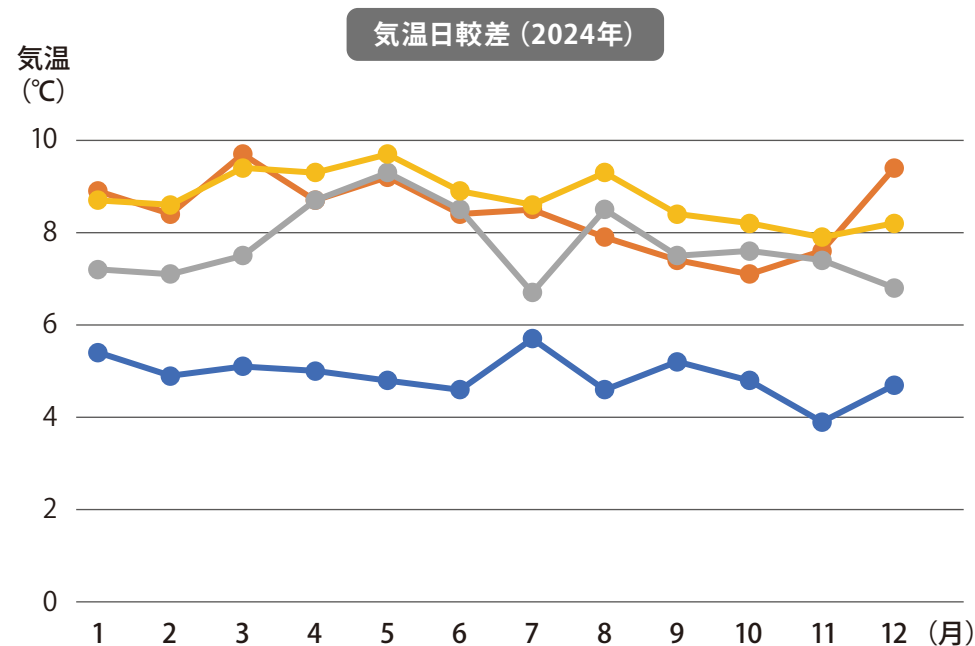


Point

3 安定した気候で過ごしやすい！

日本で唯一の亜熱帯地域に属する県である沖縄は、1年を通じて温暖であり、通常雪が降ることはありません。例えば半導体製造において求められるクリーンルームの環境温度は23度と言われており、沖縄の平均気温に近く、1日の気温差も県外に比べて格段に少ないため、恒温環境を維持するためのコストを削減することができるというメリットもあります。

このように、寒暖差が少ないという気候も、立地するうえでの沖縄独自のメリットとなっています。



● 那覇 ● 東京
● 大阪 ● 名古屋

出所：気象庁（2024）

沖縄は、東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かし、アジア経済と連動することでその活力を取り込むビジネス拠点として注目されています。沖縄県では、日本とアジアを結ぶ国際ビジネス都市として沖縄を発展させるため、空と海の玄関口である那覇空港と那覇港を基軸とした、アジア展開に優れた国際物流ネットワーク構築に取り組んでいます。

加えて、県内外を結ぶ直行の旅客便も多く運航しており、空路4時間以内の距離に人口約20億人をもつ巨大マーケットの中心となっています。



□ 海外便

台北 60便／週 所要時間 1:25 (640km)	香港 21便／週 所要時間 2:35 (1,440km)	(台北経由) ケララプール 4便／週 所要時間 7:30 (3,800km)
高雄 10便／週 所要時間 1:45 (843km)	北京 2便／週 所要時間 3:40 (1,852km)	シンガポール 3便／週 所要時間 5:10 (3,760km)
ソウル* 35便／週 所要時間 2:20 (1,260km)	上海 18便／週 所要時間 2:00 (806km)	
釜山 7便／週 所要時間 2:15 (1,008km)	バンコク 4便／週 所要時間 4:40 (3,130km)	

※ほか、ソウルー下地島(宮古島) 5便／週あり
※所要時間は那覇空港発着各地着までの目安

□ 国内便

東京 42便／日 所要時間 2:20 (1,687km)	羽田 36便／日 成田 6便／日	1便／日
名古屋 12便／日 所要時間 2:05 (1,483km)		○新千歳 ○岩国
関西 26便／日 所要時間 1:50 (1,261km)	関西 13便／日 伊丹 5便／日 神戸 8便／日	○仙台 ○松山
福岡 23便／日 所要時間 1:30 (1,008km)		○新潟 ○高松
鹿児島 2便／日 所要時間 1:15 (758km)		○茨城 ○宮崎
		○小松 ○熊本
		○静岡 ○奄美
		○岡山 ○与論
		○広島 ○沖永良部

日本とアジアの主要都市を結ぶ那覇空港

那覇空港は、国内各地とアジア主要都市を結ぶ豊富な航空路線網を有し、これらの都市から4時間圏内にあることから、国際航空物流ハブとしての優位性を有しています。

このため、国際物流拠点の形成を目指す沖縄県では、貨物専用機に加え、那覇空港に就航する旅客便の貨物スペースを活用する輸送モデルを推進しています。急速に市場が拡大しているEコマース等の多仕向地・多頻度化の需要に対応するものとして、このモデルの拡充や認知度の向上に取り組むとともに、物流機能の強化を図ることによって、国際航空物流ネットワークの強化・拡充に取り組んでいます。

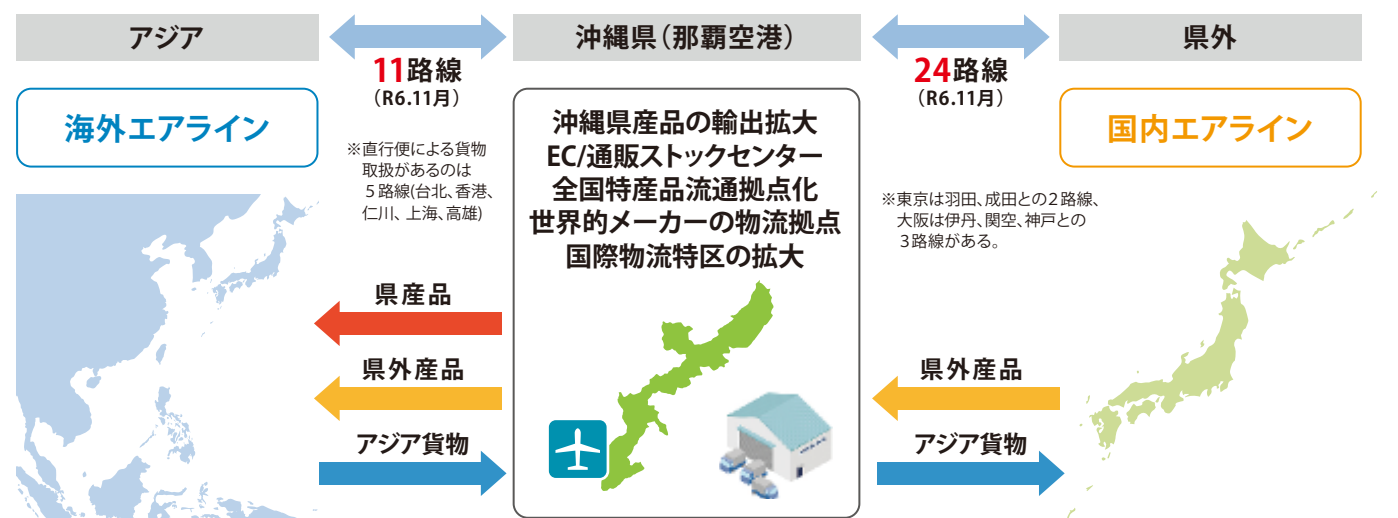
沖縄国際物流ハブ

ポイント

- ◆貨物専用機に加え、ベリー便(旅客機による貨物輸送)を活用した航空物流ネットワークの構築
- ◆引き続き伸張するアジアのダイナミズムの取り込み
- ◆Eコマース等の新たな物流ニーズへの対応

効果

- ◆物流ネットワークの多様化、低コスト、利便性の向上など機能性の高い国際航空物流ハブの構築
- ◆県産品・県外産品の商流構築、更なる産業の集積等



国内貨物専用機の運航



令和6年4月11日から、ヤマトグループが機体を導入し、JALグループが運航を担う国内貨物専用機が、那覇空港を含む国内5空港での運航を開始しました。

那覇空港においては、成田空港から那覇空港までの片道1便、那覇空港から北九州空港までの片道1便が毎日運航し、北九州空港からは現在、成田・羽田空港の両空港への接続便が就航しています。

■成田空港6:00発 → 那覇空港9:00着 ■那覇空港15:45発 → 北九州空港17:30着 (R6.12月現在)

沖縄大交易会

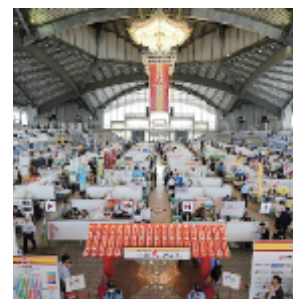
次回開催予定！13th沖縄大交易会2025

リアル商談会

【会期】2025年11月20日(木)・21日(金)
【会場】沖縄コンベンションセンター

オンライン商談会

【会期】2025年8月1日(金)～12月19日(金)
【会場】オンラインによる商談会は会場の設置はございません



沖縄国際物流ハブを活用し、県産品及び全国特産品の海外販路拡大を目指す日本最大級の「食」をテーマにした国際商談会。これまで12回開催し、令和6年度は国内外から約400社のバイヤー、サプライヤーに御参加いただき、約2,400件の商談が行われました。

【問い合わせ先】

沖縄大交易会実行委員会事務局
(沖縄県産業振興公社内)
TEL:098-851-7463 / FAX:098-859-6233
E-mail:daikouekikai@okinawa-ric.or.jp



公式
ホームページ



紹介動画
(10分程度)